

水稻採種ほ場周辺の農家の皆さま

イネばか苗病の撲滅にご協力をお願いします!!

1 「イネばか苗病」が増えています！

- ・「イネばか苗病」は種子の指定病害です。万一、採種ほ場で発生があれば種子として使用できません。
- ・近年、東北数県で「イネばか苗病」が採種ほ場周辺に発生し採種できなかった事例がありました。
- ・道内でも平成24年は中発生以上の発生事例が目立ち、被害面積率は0.2%（平年0.0%）でした。
- ・「イネばか苗病」は種子伝染性の重要病害ですが、的確な種子消毒を行うことで防げます。

2 「イネばか苗病」とは？【病徴】

- ・苗の黄化と徒長（本葉2～3葉期）【写真①】、苗箱内で近くの苗に伝染します。
- ・発病苗は移植後間もなく枯死。
- ・苗床で発病せず、潜伏感染していた苗は移植後に本田で発病し、徒長症状を示します【写真②③】。
- ・発病株は出穂前に枯死【写真④】。
- ・枯死株の茎、葉鞘、節などには白色～淡紅色の粉状のカビが一面に発生【写真⑤】。
- ・これが病原菌の胞子で、数百メートル飛散して開花期の籾に感染し翌年の伝染源となります。



3 「イネばか苗病」の対応方法

- ・本病は発病したら薬剤での防除法はない！
- ・自家採種は保菌リスクが高いため、100%採種ほ産の種子を使用する。
- ・的確な種子消毒で発病させない！
- ・苗床での発病苗はポット育苗ではポットごと、マット育苗では発病苗周辺も含めて土ごと抜き取る（できればマット苗は箱ごと廃棄する）。
- ・本田での発病株は株ごと根付きで抜き取る。【写真②③】の段階で抜き取り、出穂前に抜き取りを完了する。【写真④】では遅い。
- ・抜き取った苗・株は、焼却するか、土中に埋める。

◆ 種子消毒(温湯消毒・生物農薬等)の注意

- ・生物農薬は適切な薬液温度を守る。
- ・温湯消毒は定められた処理温度・時間・量を守る。
- ・温湯消毒後の種子は速やかに冷却し、乾燥または浸種する。
- ・各種子消毒法を組合せる。
(表参照、H22北海道普及推進事項)
- ・消毒方法が異なる種子や未消毒種子と一緒に浸種しない。

表 種子消毒法による「ばか苗病」防除効果の違い

種子消毒法		防除効果 (ばか苗病)
単独処理 (対照区)	エコ (エコホープ浸種前200倍浸漬)	C~D
	エコDJ (エコホープDJ浸種前200倍浸漬)	D
	食酢 (食酢50倍)	D
	温湯 (温湯消毒60℃10分)	B~C
	タフ (タフブロック200倍)	D
組合せ 処理	エコ + 食酢	B~C
	エコDJ + 食酢	B~C
	温湯 + 食酢	B~C
	温湯 + タフ	B~C

(防除効果) B: 化学農薬と比べほぼ同等、C: やや劣る、D: 劣る

4 採種ほ周辺農家の皆さまへのお願い

- ・種子消毒の徹底
- ・育苗ハウスの発病苗のチェックと抜き取り
- ・本田で発病株が発生した場合の抜き取り
- ◆本病の発生が確認された場合や疑わしい場合ならびに苗と本田のチェック等はJA、採種組合、普及センターにご相談下さい。
- ◆不明な点は、北海道米麦改良協会、北海道にご確認ください。